

第8回道泉地区協議会 結果について（報告）

日 時	平成 30 年 11 月 9 日（月） 19:00～20:00 於：道泉地域交流センター
配布資料	別添のとおり
<p>【議題】※司会進行：道泉地域交流センター長</p> <p>1 あいさつ</p> <p>センター長より挨拶がされた。 自治会長代理より挨拶がされた。 経営戦略部長より挨拶がされた。</p> <p>2 協議及び報告事項</p> <p>(1) 構成員について</p> <p>事務局から、本日は協議会役員、各グループ代表者、小・中学校代表者、地域代表者併せて 21 名の出席があることが報告された。</p> <p>(2) 小中一貫校の取り組み状況について</p> <p>○ 通学路安全対策について</p> <p>資料 1 に基づき、通学路の安全対策の実施状況及び実施計画について報告された。</p> <p>○ 路線バスを活用した通学について</p> <ul style="list-style-type: none">・ シャトルバス形式とは、瀬戸駅前から祖母懐橋までを巡回するという意味合いである。・ 通学日数は 200 日を基準としていくが、夏季休暇期間や年末年始等については、今後協議をさせていただく。・ 資料には、参考値として現状の運賃を記載させていただいた。・ 資料 3 は運行ダイヤ案であるが、黄色にマークされているダイヤについては、増便をさせていただいたところである。・ 乗降場所については、安全な乗降場所を確保するために現状の児童遊園をバスの乗降場所として整備する予定である。（資料 4 参照）・ 全ての児童生徒が乗車できるようにするためには、現状から 3 倍増便しなければならず、実情として、この赤津線は廃線案も出ていたが、市から負担金を支払うことで継続されている。そのため、全ての児童生徒が乗車でき、さらに全員無料でということは、実現させることが難しいため、保護者負担をお願いする。どれぐらい負担していただくかについては、今後の検討事項とさせていただきたい。今年度内には確定させていただきたい。 <p>○ 制服・体操服について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 他校とのバランスも考え、制服着用学年は中学生（7 年生）からと考えている。・ 現状として、まずは業者の選定を進めているところであるが、今後、児童生徒や保護者及び教職員等へもご意見を伺いながらデザインを決めていきたいと考えている。	

○ 校歌・校章について

資料6・7に基づき、校歌についての進捗状況が説明された。

○ にじの丘だよりについて

- ・ 今年度から、にじの丘学園に係る進捗状況をお知らせするために、「にじの丘だより」を発行させていただいている。

質疑応答

質問1：資料1の通学路マップについてだが、本山中学校の土地を返すのにも関わらず、その中通学するルートが残っているがなぜか。

回答1：通学路としては、使用させていただける可能性も残っているため、残している。今後その点についても、土地の保有者等と協議させていただく。

意見1：資料1の通学路マップにある、点線の部分については現状使用していない通学路であるが、今後使用するであろう箇所になるため、整備を進めていただきたい。同じ地区在住でバス通学と徒歩通学が混在すると、通学班を検討する際に困る場合があるため、小学生は全員バス通学等と決めていただけたほうが、現場の指導がしやすい。200人を超える児童生徒が素早く安全に乗降できるような、ソフト面も検討していただきたい。

三木議員：地区として、まだ全員無料でバス通学という要望を持っている。

質問2：シャトルバス形式ということは、祖母懐橋から瀬戸駅前まで戻ってくる際には、空で戻ってくるのか。

回答2：公共の路線バスになるため、一般客の乗降を禁止するわけではない。

質問3：夏休みの部活動や出校日などについても、検討しているか。

回答3：平常時と同じだけの便数確保は難しいが、利用人数を加味しながら今後検討をしていくところである。

質問4：公共のバスということで、一般客も乗るバスに子ども達だけで乗せることに不安を感じる。

回答4：バス事業者とも、ほとんど専用のバス形態になるのではないかとということで協議を進めている。

質問5：祖母懐橋（バス乗降場所）からにじの丘学園までの道は距離としては短いですが、坂が急で子どもにとっては大変である。

回答5：坂が大変であることを改善させることは難しいが、集団登下校の形をとりながら、安全対策についても検討をしていきたい。

意見2：いつバスについての具体的な内容が決定するのか。検討しているという言葉は、不安になる。遅くとも年度内には、確定していただきたい。

質問6：1番遠い学区から登校することを想定し、まず集合するために5～10分待つ、パーティ瀬戸まで1600m、子どもが歩くとすると（40m/分）40分、バスを待つために10分、バスを5分乗車する、バス下車から学校まで20分歩くとすると、80分～90分かかかる。この時間は現実的ではない。1番遠い学区からすると、もっと近いバス停もあるし、名鉄電車の方が近いということもある。市のお金を使うのであれば、もっと有効に使って

ほしい。

事務局：特定の地区だけのことを考えるのではなく、我々の要望道泉連区全体として市は検討を進めている。公共のバスを活用することに伴う、様々な不安については今後安全対策をしていかなければいけないことである。今まで、道泉連区が全員バスに乗車できるようにという要望を出し、まずはそれがクリアされ、次は運賃について無料にしてほしいという点について、協議をしていくことになるが、根本を覆すような話をまたここですると、協議が進まなくなってしまう。

意見3：1番遠い地区を基本とするべきではないか。バスを出すことは最低条件であり、この今の市が提案しているものでは支援としての意味がない。

意見4：今まで普通に公立の小中学校に歩いて通っていたものが、公立の学校に通うため1時間半かけて通学することはありえないことである。この点について、再度しっかり考えていただきたい。

(3) 小学校の跡地利活用について

○ 配布資料に基づき、市から説明がされた。

- ・このたび、小学校跡地の利活用についての市方針（案）をお示しし、今後、みなさまと協議していきたいと考えている。今回、お示しするものはたたき台である。
- ・人口シミュレーションでは、今後40年間で約4万人の人口減少が想定されており、人口減少を抑制していく施策は、本市において喫緊の課題である。
- ・新しい「にじの丘学園」を一つの小中学校区のエリアとして捉えることをはじめ、第6次瀬戸市総合計画、公共施設等総合管理計画などを踏まえ、人口減少、公共施設の維持管理経費などの課題解決に向けた取り組みとしたい。
- ・にじの丘エリアを中心とし、新たに一つの小学校区としての役割及び機能分担が生じることになる。また、このエリアは、「安全と安心に裏打ちされた多世代の居住空間・新たなコミュニティの創造」を目指していきたい。
- ・道泉小学校の利活用イメージについては、資料4Pのとおりである。
- ・また、放課後学級及び放課後児童クラブ、指定緊急避難場所及び指定避難所については、資料4Pのとおりである。

質疑応答

意見1：道泉小学校跡地は、地域の防災避難場所として今後も必要である。グラウンドなど避難するための広い場所が必要である。また、小学校は備蓄場所でもある。防災機能として残してほしい。そのほか、グラウンドは運動会を開催している場所でもある。

意見2：防災計画においても、各小学校が避難場所として指定されている。地元と相談してほしい。話が飛躍しすぎである。

意見3：現在、土日は野球クラブが使用している。にじの丘学園グラウンドが確保できるなら良いが、今回の提案には啞然とした。ありえない方針である。せめて、グラウンドは残し、地域住民に提供してほしい。少年クラブとして、市長宛に陳情書も提出している。

三木議員：道泉小学校は地域の避難場所として頼りにしている場所である。これまで防災訓練なども行ってきている。今回の案は、それを取り上げるということである。ありえない話である。住民の安心安全を考えているのか。疑問に思う。安全が確認できなければ、安心と安全の多世代の自由空間などありえない。一旦、土地を手放してしまったら、もう二度と戻ってこない。人口を増やして、これだけの広さの避難場所を確保できるのか。目先のために、売却して「お金に替えてしまう」。10年、20年先を見越しているのか。長い目で見たときの安心安全に繋がった方が良い。地域住民の心の拠り所となっているので、安易に売却しないでほしい。管理はできる。

意見5：「売却」はダメである。

意見6：地元住民には、地元愛がある。

意見7：住宅地となれば、地域の人には安心して使用できない。そのままの状態地域に残してほしい。

意見8：高齢者が安心して暮らしていくためには、土地の売却は止めてほしい。これまでも地域の行事としての使用や、地域コミュニティの場となっている。残す方向で検討してほしい。

意見9：資料の「財源確保」という言葉は市民感覚と乖離している。また、「コストがかかる」だけではなく、プラスマイナス面をきちんと比較してほしい。

意見10：協議の進め方が良くない。たとえ、住宅地にしたとしても、それほど人口は増加しない。

意見11：「住みたくなるまち」を目指すのであれば、学校跡地は残すべきである。

質問1：せとっ子モアスクールはどうなるのか。

回答1：放課後学級（午後5時30分まで、保育料なし）は、にじの丘学園で整備し、放課後児童クラブ（いわゆる学童、就労支援の一環）は、PTA アンケート結果を鑑み、道泉地区については地域に残すよう検討したいと考えている。

意見12：子どもたちの遊ぶ場所がない。住宅地にはしないほしい。また、災害時には仮設住宅が設置される場所である。高齢者の避難場所として必要である。

意見13：避難する際、車中で泊まることもある。そのための場所が必要である。体育館、校舎、グラウンドはセットで残してほしい。住民の切なる願いである。

質問2：災害時、本山中学校が使用できないとなると、その分はどうやってカバーするのか。

回答2：発災直後（1㎡/人）で言えば、本山中学校（体育館及び柔剣道場）は最大870名、道泉小学校（体育館）は最大320名収容可能である。また、長期（3㎡/人）では、それぞれ265名、100名となる。本市においては、初期に全体で約13,000名が避難所へ避難することができるよう想定しており、各地域でカバーするのではなく、「市全体でカバーしていく」という考え方である。可能な限り、避難者を収容できるよう、各学校の教員とも協議し、校舎なども利用も考えていきたい。従って、南海トラフ地震などの大規模災害の場合については、地域を越えて避難するということは想定しうることである。

意見14：住宅地にするということはあるにない。少年野球クラブは、これから野球ができないのか。地域の避難場所はどうなるのか。本日の資料についても、住宅地ありきでまとめられたものに思える。また、「瀬戸市小中一貫教育に関する基本構想（平成28年10月 瀬戸市教育委員会）」では、深見和博教育長がこう述べている。「さらに、今回の改革のも

う一つの大きな目的は、これまで学び舎であった既存の学校を、引き続き、地域の拠点として存続させることにあります。人々が”せと”という風土を守り、自信を持って世界へ羽ばたく力を蓄える人づくりの場として、それをすべての地域住民で育てていく極めて大切な巣として、これからも地域に愛される施設となっていくよう、地域と行政が力を結集させるエネルギッシュな取り組みであります。」この文脈と市の提案は矛盾しているのではないか。

自治会長代理：本日の協議会は、不完全燃焼だったと思う。年明けにまたこうした機会を設けたい。

備 考	
-----	--